

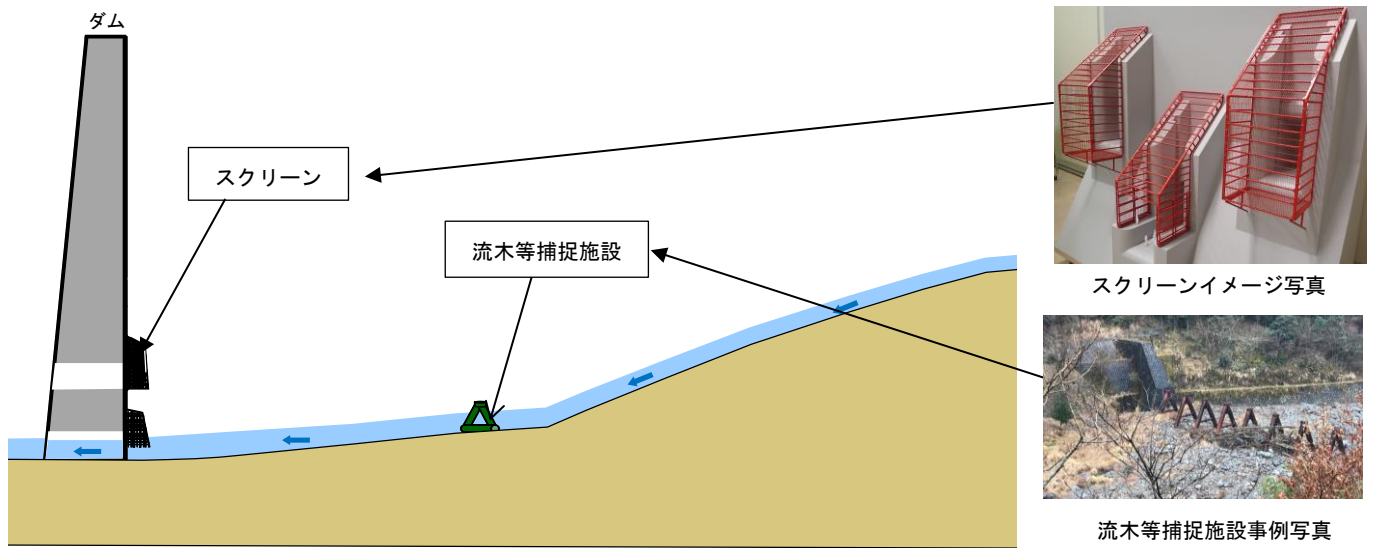
Q3-3. 立野ダムの放流孔は、巨石や流木で詰まらないのでしょうか。

- 立野ダムの放流孔は約 5m×5m あり、現在の川と同じ高さに 1 箇所、それより高い位置に 2 箇所の計 3 箇所に設置しています。
- この放流孔を閉塞させるような巨石（5m 程度）は、平成 24 年九州北部豪雨でも移動していないことを確認しています。（写真－1）
- また、この放流孔が流木や大きめの石によって塞がらないようにするための対策として、ダム上流に流木等捕捉施設を設けるほか、放流孔にスクリーンを設置しています。（図－1～2、写真－2）
- 放流孔に設置するスクリーンは、放流孔が閉塞し、放流能力に影響がないよう流木等を捕捉する施設であり、放流孔内の一番狭い箇所（5m×5m）に比べて、スクリーン表面等の面積は約 17 倍～20 倍を確保することで、放流能力に影響を与えない施設としています。
- ダム上流に設置する流木等捕捉施設は、更なる安全対策として上流から流れてくる流木や大きめの石を捕捉する施設です。
- このことについて、関係各分野の第一人者からなる「立野ダム建設に係る技術委員会」において、「放流孔内に流木が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響はないと考えられる」「放流孔内に巨石が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響がないと考えられる」との評価を得ています。



※平成24年九州北部豪雨でも巨石（5m程度）が移動していないことを確認

写真－1 巨石調査状況



図－1 流木等捕捉施設及びスクリーン（イメージ図）

正面図

スクリーンバー正面図 (案)

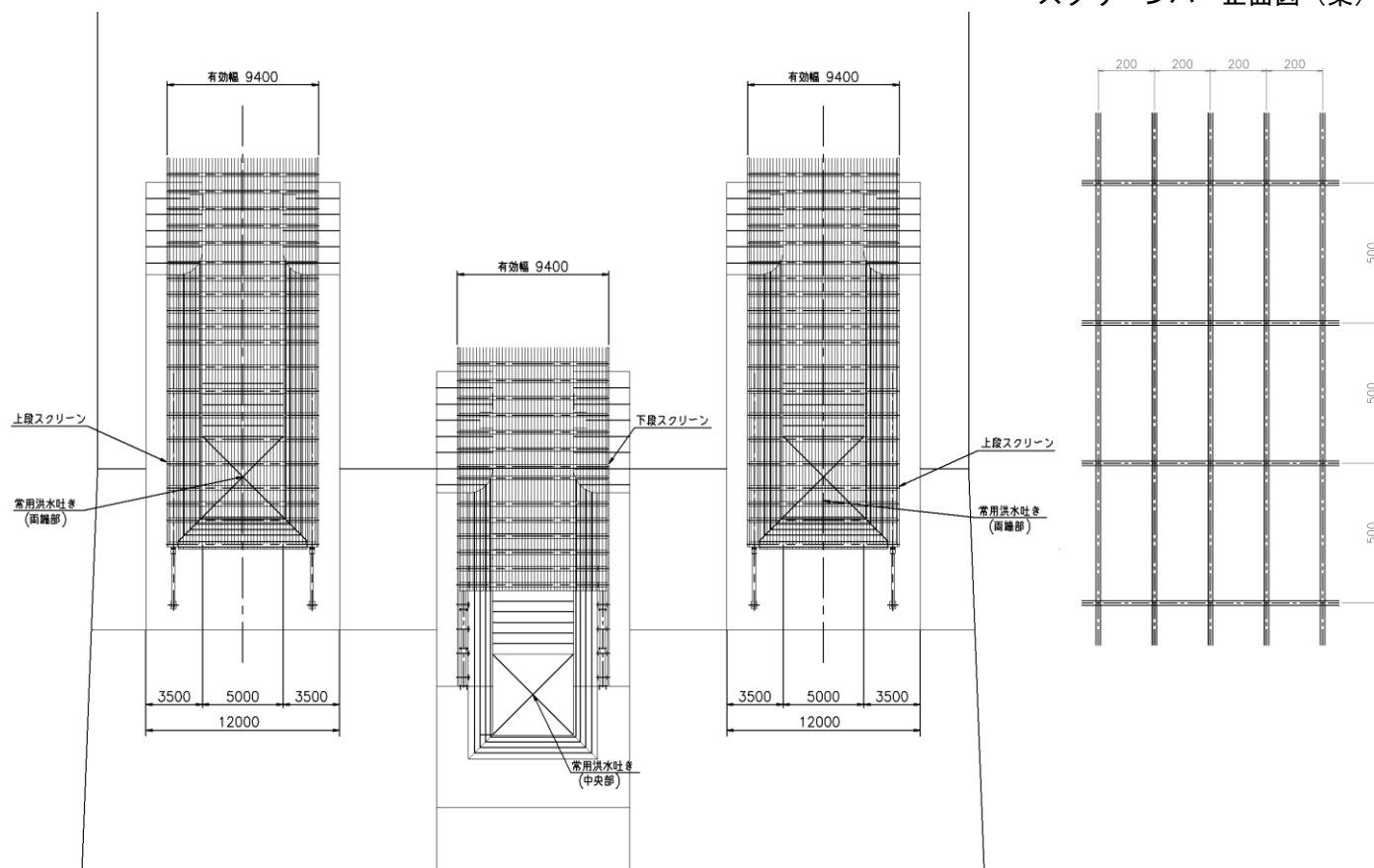


図-2 スクリーン構造図 (案)

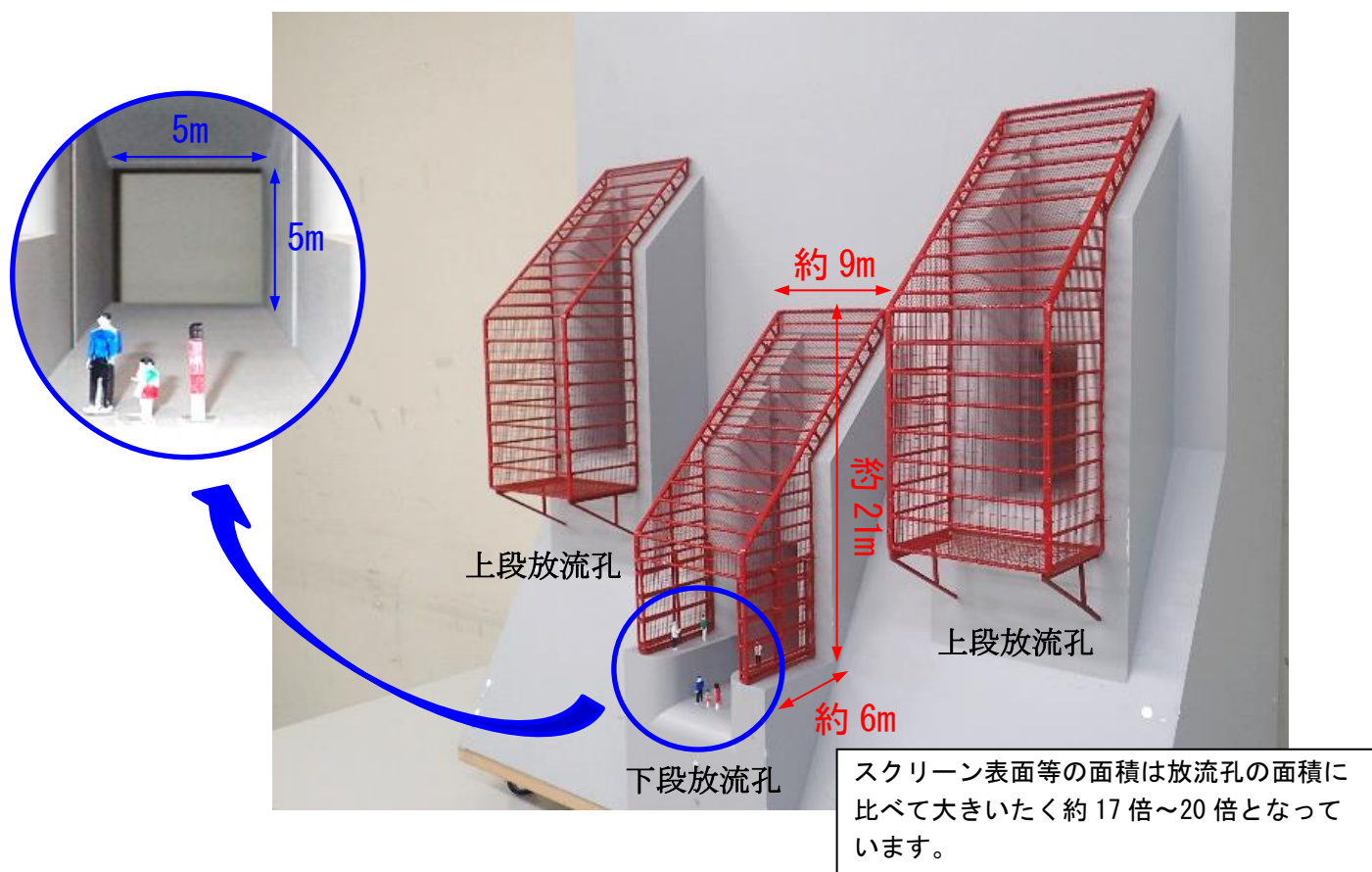


写真-2 スクリーンイメージ